

	課題分析	授業改善策
国語	○読解力の低下（文章を的確に読み取る力） ○読解力・記述力の低下（文章を的確に読み取る力・自分の考えを表現する能力）	○筆者が「なに」を伝えたいのか・伝えているのかを徹底的に読み取る授業づくり。 ○資料や写真も読み取りながら読解を進めていく力の育成。 ○自己の考えを記述し表現する機会を増加させるとともにフィードバックも行う。
社会	○一問一答形式の問いには答えることができるが、複雑な問いになると、答えることができない。時代の流れや因果関係の把握をさせることが課題となっている。 ○記述問題に対して苦手意識をもっている生徒が多く、初めからあきらめる傾向にある。	○写真や映像資料を用いて、生徒に興味関心をもたせる。 ○ノートやワークのチェックをこまめに行い、生徒の理解度を把握する。 ○年代の並び替え問題や、正誤問題に取り組ませ、知識を定着させる。 ○授業内で自分の意見を考え、表現する時間をつくる。
数学	○1学年：基礎的な計算力の定着 ○2学年：思考・判断・表現分野の向上 ○3学年：思考・判断・表現分野の向上	○授業初めに基本的な計算練習の時間を取る。 ○方程式の利用や証明問題の答案の書き方を集団で検討する機会を設定する。 ○基礎的な問題だけでなく理解力を問う問題に取り組む時間を作り、教え合いや学び合いの学習をする時間を取り入れる。
理科	○全国学力調査の結果や、本校の状況を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」の向上が求められる。	○実験結果から、科学的な根拠を基に考察させる場面を多く設けることで思考力・判断力を養う。 ○他の生徒との対話を通して、表現力を身に付けさせる。 ○生徒の疑問を引き出しながら授業を行うことで主体的に学習する態度を養う。
音楽	○取り組む意欲、技能に大きな個人差がみられる。課題に慣れると自主的に取り組むようになるが、初見の課題に対しては抵抗感を強く感じる生徒も多い。 ○音楽から感じ取ったことを言語化するための語彙力が不足している。	○歌う時の並び方を声量の偏りが出ないように工夫する。 ○きめ細やかなフィードバックを心がけ、生徒が安心して練習や学習に取り組める環境をつくる。 ○互いの学習成果を見せ合う、優れた解答を他クラスにも共有するなど、様々な表現に触れさせる。
美術	○生徒が授業の主題を理解することで、主体的に表現活動や鑑賞活動をしようとする姿勢を引き出していく必要がある。	○興味・関心が高まる教材の設定が必要である。 ○導入授業の工夫。（※ICT機器の活用） （生徒の主題への理解を促進させる） ○作品制作の背景、表現活動の目的を認識させる授業を展開して「ねらいをもって表現する楽しさ」を実感させていく。 ○表現活動をする前提となる知識や技能を身につけて、作品に結実させていくことの楽しさ、充実感を実感させる。
保健体育	○近年の生徒は、コロナの影響により、小学生の活発に運動する時期に行動制限が設けられていた。そのため、新体力テストの結果からも、体力の低下が感じられる。特にハンドボール投げや走ることへの二極化が起きていて、普段から運動をしない生徒への対応が必要となる。	○運動が苦手な生徒に対して、簡単な動作からスモールステップでの学習を行う。球技では、単純なボール慣れを通して楽しみながら体力を向上させる ○自分の体力に合った運動を適切に選択できるように、課題解決学習を行い、自己の体力が向上するように指導していく。
技術・家庭	○全体的に前向きに取り組むが各領域の実習で意欲、技能などに大きな個人差が生じている。 ○タブレットを使用し観察記録等を作成しているが、タブレット操作にも個人差が生じている。	○昨年度の作品の写真をICT教材として活用しイメージをもたせる。実技の個人差については個別の対応に力を入れ、技能差に対応できるよう生徒の把握と見本や一部加工の補助を行う。また、放課後の時間を利用して個別対応をする。
外国語（英語）	○GTEC4技能検定の結果では、80%以上の生徒がCEFR-JがA1.1レベル以上であった。技能別の結果では、「読む」技能におけるスコアがやや下回っていた。また、短文文脈問題において、適切な語句を選べない傾向があった。	○100語程度の短い英文を読んで読む速度を計測し、簡単な問題に答えたり、内容を要約して伝えたりする活動を行う。 ○長期休暇中に、既習の単語を復習して書く練習をし、まとめて語彙力を高める活動を行う。